

事業の概要

茨城港(常陸那珂港区)は北関東地域の玄関口として経済・交流活動を支える重要な港湾であり、北関東自動車道の開通も相まって海上輸送の需要が増大しています。北関東地域に立地する自動車メーカーの完成自動車の増産に対応し、円滑な物流を確保するため、新たな国際物流ターミナル(水深12m)を整備しています。

平成30年度予定

○岸壁(水深12m)のケーソン据付工等を実施する予定です。

事業の効果

- 完成自動車取扱台数の増加と自動車運搬船の大型化に適切に対応することにより、北関東地域からの完成自動車の海上輸送コストの削減等が可能となります。
- 完成自動車や部品等含めた広範な関連産業における国内生産機能の維持・拡大に寄与します。



茨城港常陸那珂港区外港地区国際海上コンテナターミナル等整備事業

H30年度事業費:9.1億円

【茨城県】直轄

事業の概要

茨城港(常陸那珂港区)は北関東地域の玄関口として経済・交流活動を支える重要な港湾であり、北関東自動車道の開通も相まって海上輸送の需要が増大しています。コンテナ貨物量等の増加に対応し、円滑な物流を確保するため、新たな国際海上コンテナターミナル等を整備しています。

平成30年度予定

○防波堤(東)のケーソン据付工等を実施する予定です。

事業の効果

- 防波堤の延伸を行うことにより港内の静穏が保たれ、岸壁での荷役作業効率が向上します。
- 茨城港常陸那珂港区におけるコンテナ等取扱能力の向上が図られます。
- 北関東地域の企業が茨城港常陸那珂港区を利用することで、効率的な海上輸送が可能となります。



鹿島港外港地区国際物流ターミナル整備事業

H30年度事業費：44.1億円

【茨城県】直轄

事業の概要

鹿島港は国内有数の鹿島臨海工業地帯の原材料や製品の輸送基地として発展し、東関東内陸部の玄関口としての重要な物流機能を担っています。近年の貨物船の大型化等に対応し、円滑な物流を確保するため、新たな国際物流ターミナルを整備しています。

平成30年度予定

○防波堤(南)のケーソン据付工及び航路・泊地(水深14m)の浚渫工等を実施する予定です。

事業の効果

- 防波堤の延伸を行うことにより港内の静穏が保たれ、岸壁での荷役作業効率が向上します。
- 国際物流ターミナルの整備により大型船によって一度に大量の貨物輸送が可能となり、海上輸送コストの削減等が可能となります。
- 耐震化により、大規模地震発生後も緊急物資等の輸送拠点として機能します。



東京港中央防波堤外側地区国際海上コンテナターミナル整備事業

H30年度事業費:335.2億円

【東京都】直轄

事業の概要

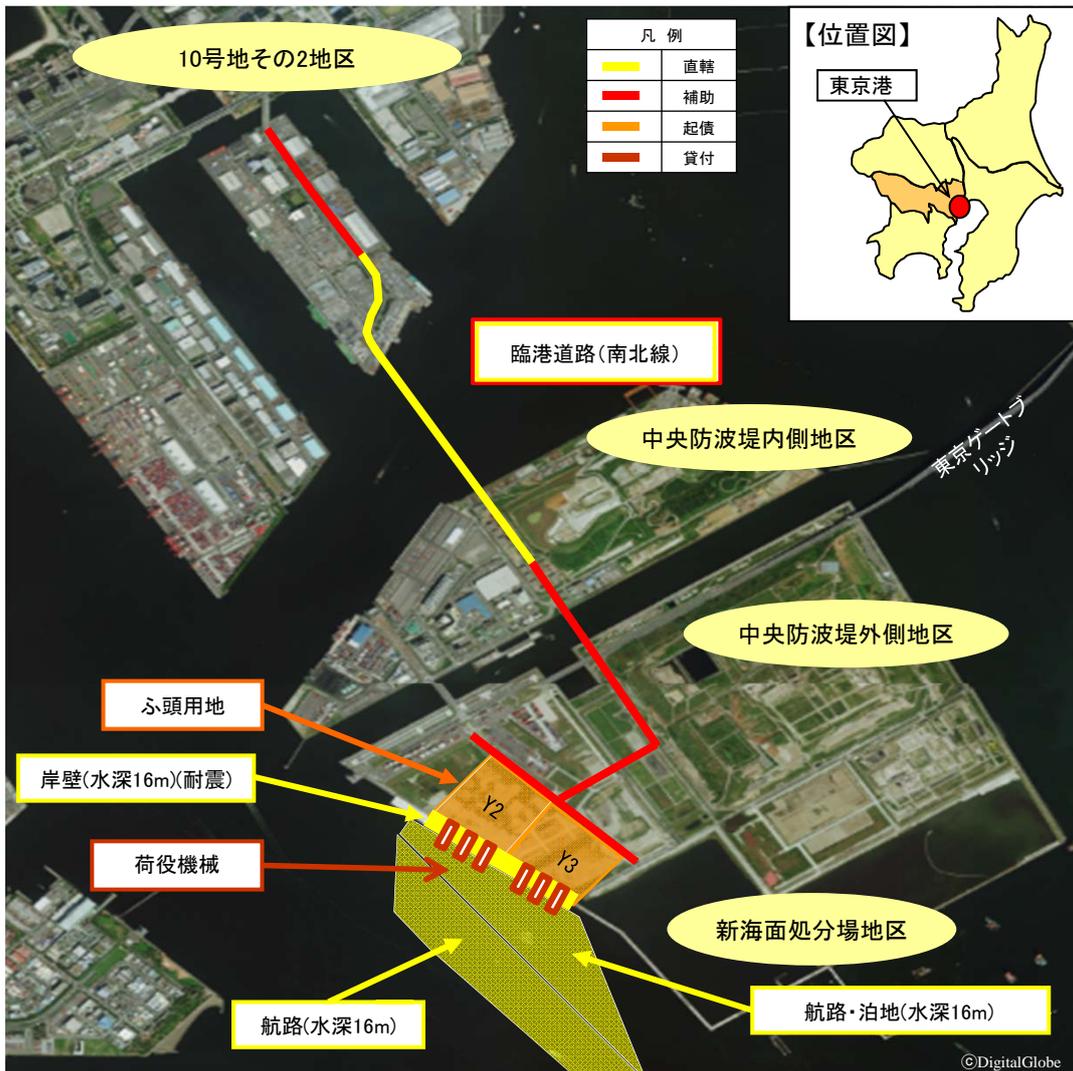
国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う東京港において、コンテナターミナルの能力不足の解消、基幹航路におけるコンテナ船の大型化や交通量の増加に対応し、円滑な物流を確保するため、中央防波堤外側地区に水深16mの耐震強化岸壁を有するコンテナターミナル及び中央防波堤地区と有明側を結ぶ臨港道路(南北線)を整備しています。

平成30年度予定

○臨港道路(南北線)における海底トンネルの築造等を実施する予定です。

事業の効果

- 東京港におけるコンテナ取扱能力の向上が図られます。
- 既存コンテナターミナル(大井地区)の渋滞解消が図られます。
- 大型コンテナ船による効率的な輸送が可能となり、物流コストの低減が図られます。
- 耐震化により、震災時においても物流機能が維持されます。
- 東京港のふ頭間交通の円滑化、および東京港と背後圏のアクセスが向上します。
- 都市機能の集中している臨海副都心(お台場)に流入していた都市交通と港湾物流交通の分散が図られ、臨海副都心の交通混雑・沿道環境が改善されます。



事業の概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う川崎港において、コンテナターミナルでの貨物取扱量の増加や日本随一の冷凍冷蔵倉庫群等のロジスティクス機能の充実に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路を整備しています。

平成30年度予定

○水江町地区等の埋設物移設や橋梁の下部工等を実施する予定です。

事業の効果

○川崎港と背後圏のアクセスが向上します。

○基幹的広域防災拠点が立地する東扇島と背後圏を結ぶ緊急物資輸送ルートが新たに拡充され、首都圏の防災機能の強化が図られます。

※基幹的広域防災拠点：災害時において、緊急物資輸送の中継基地や広域支援部隊等の一時集結地・ベースキャンプとして機能する施設。通常時は公園としても機能する。



事業の概要

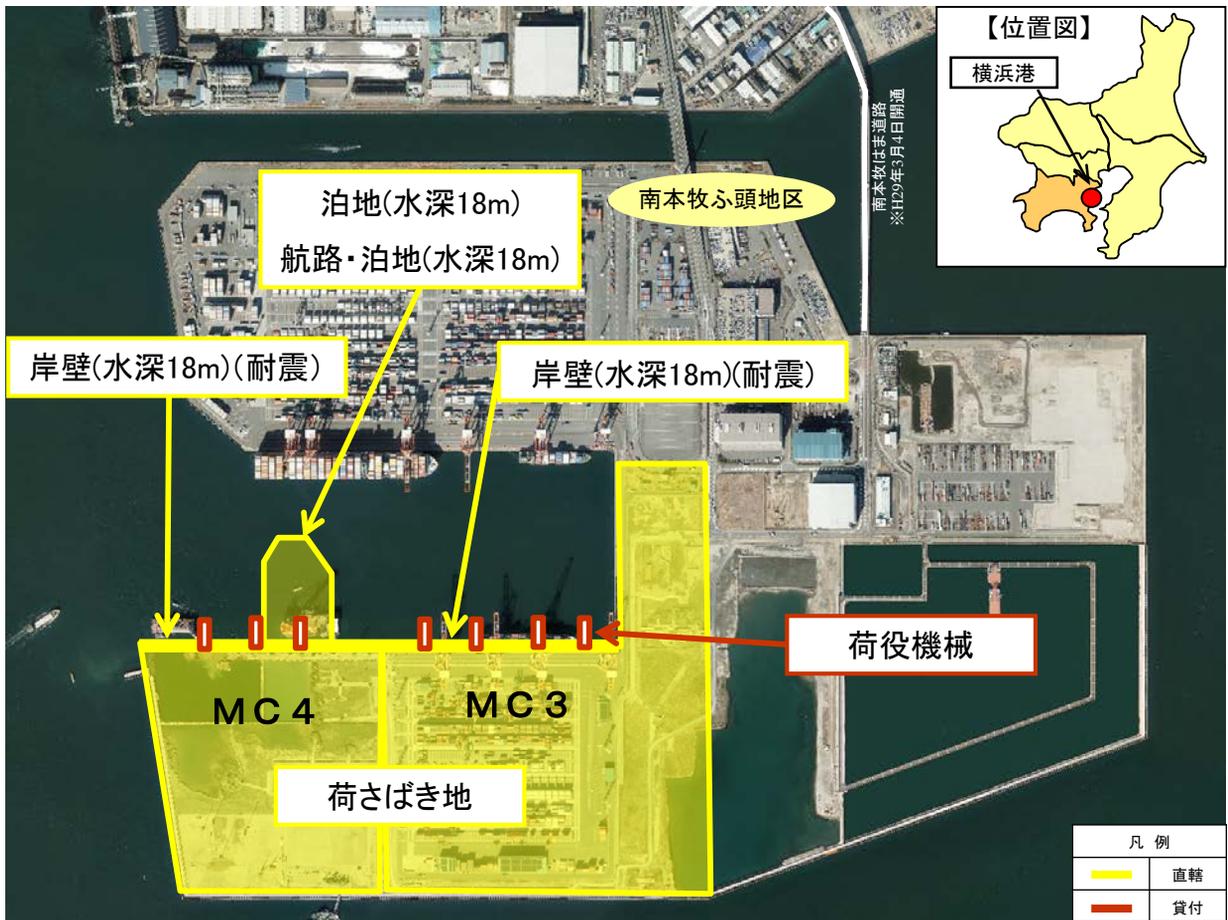
国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う横浜港において、近年のコンテナ船の大型化及びコンテナ貨物量の増加に対応し、円滑な物流を確保するため、南本牧地区に国際海上コンテナターミナルを整備しています。

平成30年度予定

○岸壁(水深18m)(耐震)の上部工、クレーン基礎工等を実施する予定です。

事業の効果

- 横浜港におけるコンテナ取扱能力の向上が図られます。
- 大型コンテナ船による効率的な輸送が可能となり、物流コストの低減が図られます。
- 耐震化により、震災時においても物流機能が維持されます。



事業の概要

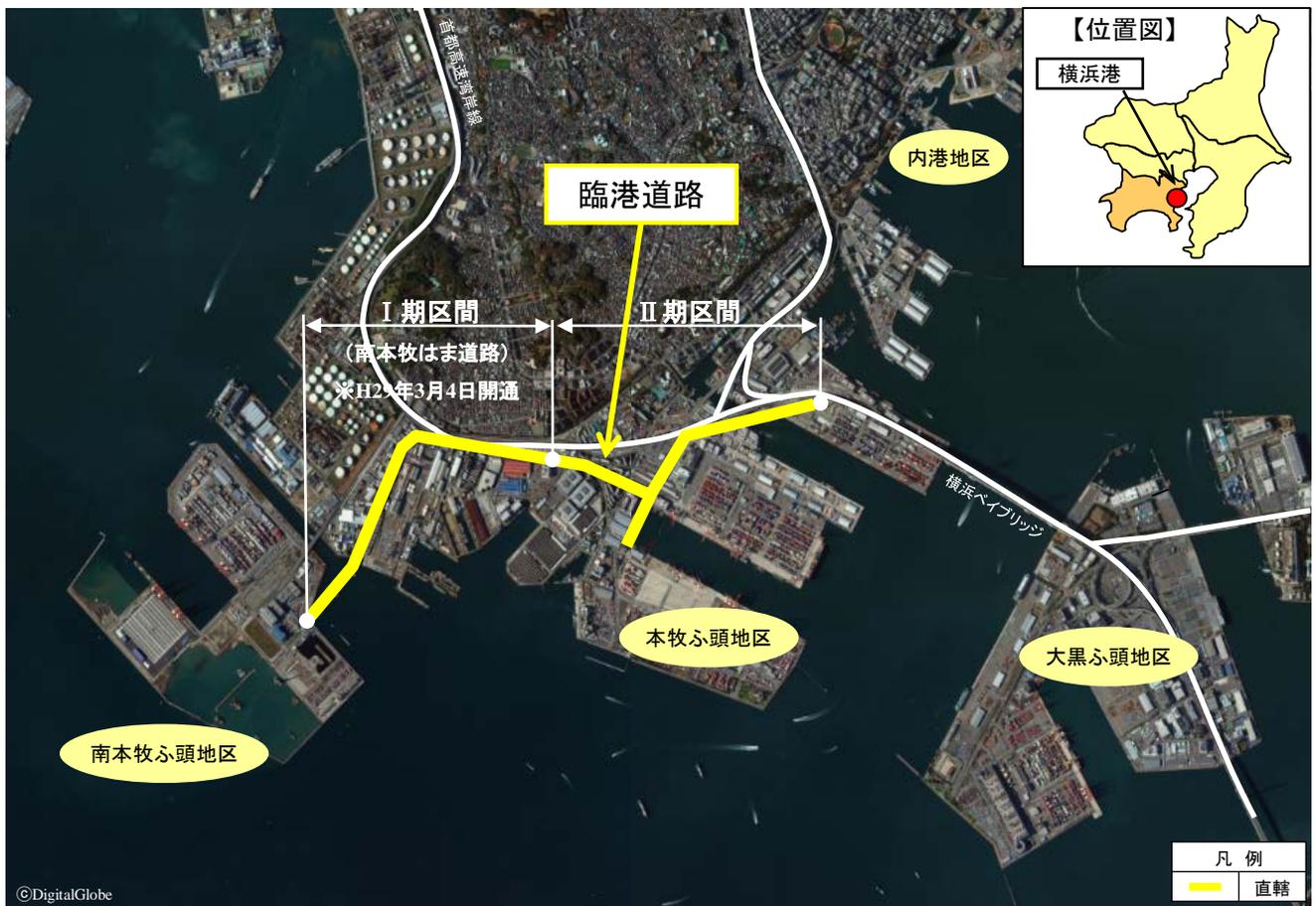
国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う横浜港において、南本牧ふ頭地区の開発に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、南本牧ふ頭地区と背後の道路ネットワークや他のコンテナターミナル(本牧ふ頭地区、大黒ふ頭地区)を結ぶ臨港道路を整備しています。

平成30年度予定

○Ⅱ期区間整備に向けての調査及び設計を実施する予定です。

事業の効果

- 横浜港のふ頭間交通が円滑化するとともに横浜港と背後圏のアクセスが向上します。
- 大規模災害等の発生時においても港湾物流車両の動線が確保され、コンテナターミナル機能の強化が図られます。



事業の概要

日本を代表する完成自動車の輸出拠点である横浜港において、近年の自動車運搬船の大型化や完成自動車の取扱台数の増加に対応するため、大黒ふ頭地区における既存岸壁の老朽化対策にあわせたふ頭の再編により、岸壁(水深12m)を整備しています。

平成30年度予定

○航路・泊地(水深12m)及び泊地(水深12m)の浚渫工、並びに岸壁(水深12m)の本体工等を実施する予定です。

事業の効果

- 完成自動車取扱台数の増加および自動車運搬船の大型化に適切に対応することにより、東日本全域からの完成自動車等の海上輸送コストの削減が図られます。
- 完成自動車や部品等含めた広範な関連産業における国内生産機能の維持・拡大に寄与します。



事業の概要

海洋資源の開発・利用など排他的経済水域等の保全及び利用に関する活動が、本土から遠く離れた海域においても安全かつ安定的に行えるよう、南鳥島及び沖ノ鳥島において、船舶の係留や停泊、荷捌き等が可能となる港湾の施設を整備するとともに、国による港湾の管理を実施します。

平成30年度予定

○南鳥島

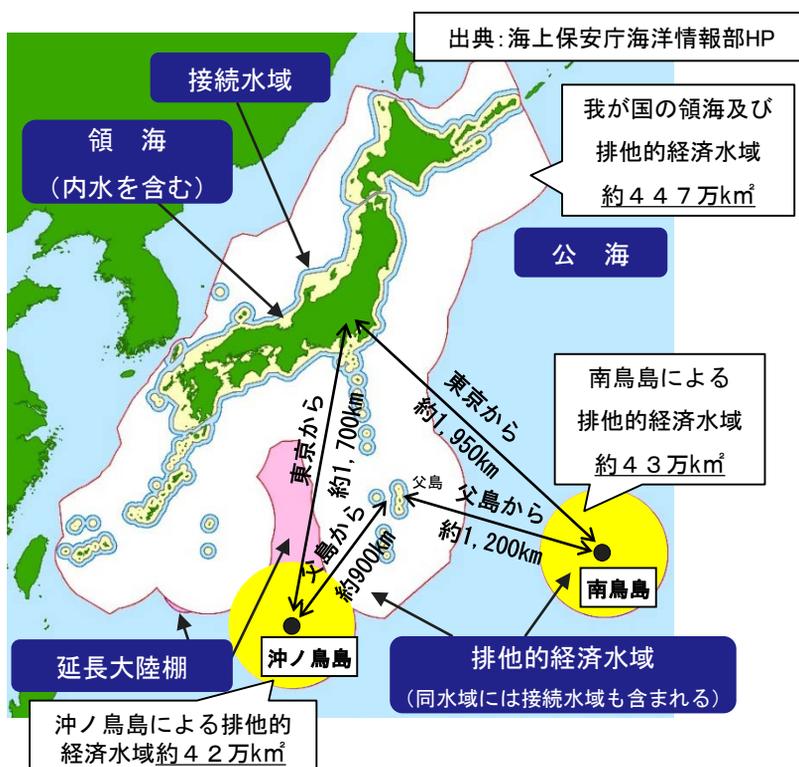
港湾の施設の整備(岸壁、泊地)を実施し、国による港湾の管理を実施する予定です。

○沖ノ鳥島

港湾の施設の整備(岸壁)を実施する予定です。

事業の効果

- 大型船が直接係留することが可能となり、資機材等の陸揚げ作業の時間短縮が図られます。
- 活動拠点ができることで、本土から遠く離れた海域においても調査船等の効率的な運航が図られます。



【南鳥島及び沖ノ鳥島の位置】



南鳥島



沖ノ鳥島